

# 令和元年度 未来につながる持続可能な農業推進コンクール表彰者一覧（九州農政局関係）

## 1 農林水産大臣賞

市町村名	応募者氏名 (団体名)	タイトル	部門
宮崎県宮崎市	宮崎大学農学部	GAP教育のノウハウを活かした指導者育成の取り組み	GAP

## 2 生産局長賞

市町村名	応募者氏名 (団体名)	タイトル	部門
長崎県北松浦郡 佐々町	有限会社北村製茶	国内および海外にファンをもつ北村の有機栽培茶	有機農業・環境保全型農業
熊本県上益城郡 山都町	鳥越靖基	仲間で奏でる有機農業と町の魅力 ～ 移住者が有機農業の町を牽引する若手のリーダーへ ～	有機農業・環境保全型農業

## 3 九州農政局長賞

市町村名	応募者氏名 (団体名)	タイトル	部門
大分県国東市	大分県立 国東高等学校	地域の特性を生かした持続可能な農業生産工程管理の農業人材の育成	GAP
鹿児島県指宿市	大吉農園	GAP 実践で更なる経営発展を目指す！ ～ いぶすき発 大吉農園のブランディング ～	GAP
福岡県赤村	株式会社 鳥越ネットワーク	有機農業でたのしい未来を紡ぐ	有機農業・環境保全型農業

代表者名：酒井正博、所在地：宮崎市  
認 証：JGAP(青果物、穀物)(H23年)  
GLOBALG. A. P. (畜産)(H26年)  
応募区分：人材育成の部

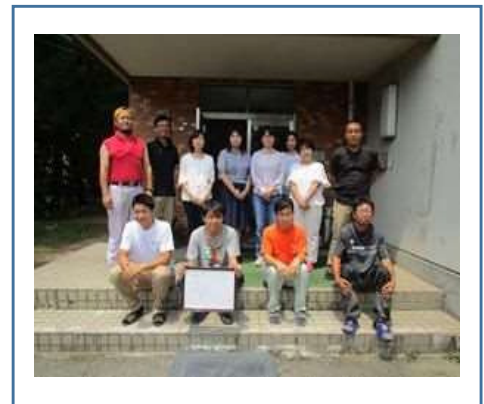
栽培面積：6.35ha  
栽培品目：青果物16品目、水稻  
飼養頭数：乳用牛33頭、肉用牛133頭、  
豚51頭  
構 成 員：青果・穀物12名、畜産15名

## 取組の紹介

- 平成23年より、国際的GAP人材育成を目指し、GAP手順に沿った教育カリキュラムを開発し、同年に青果物のJGAPを、翌年に穀物のJGAPの認証を取得。  
また、平成26年に国内初の畜産のGLOBALG. A. P. 認証を取得。
- 平成24年にGAP指導員講座を新設し、これまで、~~260280~~名以上のJGAP指導員資格を持った卒業生を輩出。(令和2年3月4日訂正)
- 平成26年からは、宮崎県と協力し学外の方への指導員・審査員研修を実施しており、一般的な座学のみならず、現地研修を取り入れ、より実際の指導等に対応出来るような指導員育成プログラムを構築。
- 平成29年度から県と連携して、畜産GAPの指導員養成のための研修を行っており、宮崎県内の畜産GAPの普及体制構築を支援。
- 県内外からの視察の受入や講師派遣にも積極的に対応し、宮崎県のみならず全国レベルでのGAPの普及に貢献。令和2年度からは、宮崎県や経済連等が進める団体認証の取組の支援を行う予定。



JGAP 認証: 木花フィールド



GLOBALG.A.P.認証:  
住吉フィールド



研修会の模様

**HP等**

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/agr/>

# 有限会社 北村製茶

有機農業・環境  
保全型農業部門

生産局長賞

法人名：有限会社北村製茶  
所在地：長崎県北松浦郡佐々町

面積：8.3ha  
構成員：11人  
栽培品目：茶

## 取組の紹介

### 【効率的な生産に向けた取組】

- 有機栽培茶の生産・加工・販売の一貫体制を構築し、ブランド化することにより付加価値を向上させ、経費に見合う取引価格を実現、経営を安定化。
- 茶園の区画整理や乗用型機械（摘採機、防除機、中切機）化体系導入をいち早く実施するなど、中山間地の省力機械化体系モデルとなっている。

### 【地域内外・他業種と連携した安定出荷・販路確保の取組】

- 緑茶を原材料として使用した歯磨き粉、化粧品サンプルの企画・開発の提案などにより、県内外に販路を拡大。契約栽培以外に小売販売のほか、インターネットを利用した通販も積極的に行っている。
- 平成29年からは、オーガニック茶への需要が高い香港へ高級茶の輸出を開始し、順調な出荷を継続。また、ニューヨークでも店舗販売を開始し、海外への展開も広がりを見せている。

### 【地域内外の消費者等への情報伝達の取組】

- 消費者や取引先との交流を深め、有機栽培茶を理解してもらうために、「茶摘みの会」や「茶園お月見会」を開催し、多くの人に茶園を実際に見てもらうことにより、有機栽培への信頼を高め、顧客を増やしている。



有限会社 北村製茶



ニューヨークでの商品展示会



幼稚園児の茶摘み体験学習

HP・SNS等

HP: <https://www.kitamuracha.com/>

# 鳥越 靖基 氏

生産局長賞

氏名：鳥越 靖基

所在地：熊本県上益城郡山都町

面積：4 ha

栽培品目：ニンジン、ピーマン  
ダイコン、カブ、水稲

## 取組の紹介

### 【効率的な生産に向けた取組】

- 東日本大震災時に食の大切さを痛感し、有機農業が盛んな山都町へ家族とバンド仲間とともに移住。60a の耕作放棄地から営農をスタートすると、地域住民に認められ、地域の耕作放棄地の活用を要望され、4 ha まで面積拡大。

### 【地域内外・他業種と連携した安定出荷・販路確保の取組】

- 販路拡大にあたりロットの確保が課題となったため、地域の有機農業者と連携し、「ASO Gairinzan Organic」を設立し、共同出荷体制を構築。技術講習会等を通じて仲間の輪を広げている。

### 【土づくりの取組】

- 鳥越氏自身が土壌分析の技術を習得しており、科学的データに基づいた施肥設計を行っている。また、土壌分析の知識と技術を有機農業者仲間と共有。

### 【地域内外の消費者等への情報伝達の取組】

- SNS を見て訪れる事業者や消費者に対して農業体験を実施。また、移住相談会等で自らの経験を伝え、自らの農地を利用して、移住者に有機農業の研修等を実施。研修後に、移住者に農地の斡旋等を実施して、独立の支援を行っている。



共同出荷を行う「ASO Gairinzan Organic」



技術講習会の様子



学生農業体験の様子

## HP・SNS等

SNS(Twitter) : <https://twitter.com/yaskiss>

氏名：大分県立国東高等学校  
所在地：大分県国東市  
認証：JGAP  
応募区分：人材育成の部

面積：1.76ha  
構成員：12人  
栽培品目：トマト、メロン、ナシ  
温州ミカン等

## 取組の紹介

- GAP手法を用いた農業経営を行う外部講師を多数招き学習を積み重ねた結果、九州の高校では初となる、JGAP認証を取得。  
(JGAP：平成24年1月取得)
- 環境保全型対策として、国内の唯一の産地である「七島蘭(しつとうい)」の試験栽培等を通じ、森林管理や水管理を活用した古くからの循環型農業の承継に取組んでいる。
- トマト及びメロンの水耕栽培に、GAP手法に基づいた養液に海水を加えながら、養液管理を行うことで、高糖度・高リコピントマト及び高糖度メロンの生産を実現し、高品質及びGAP認証品としてブランド化(国高海のトマト・国高海のメロン)に成功。
- 大分県の農業系高校におけるリーディング校として他校にも、情報提供を行い、他校においてもJGAPの手法を用いた教育実践に貢献。



七島蘭の試験栽培



「国高海のメロン」・「国高海のトマト」



GAPの取組等PR

## HP・SNS等

<http://kou.oita-ed.jp/kunisaki/>

# 大吉農園

GAP部門

九州農政局長賞

氏名：大吉農園  
所在地：鹿児島県指宿市  
認証：JGAP  
応募区分：個別経営の部

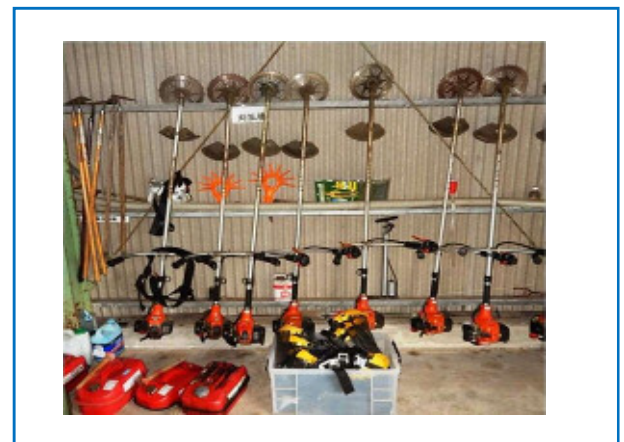
面積：25ha  
構成員：－  
栽培品目：キャベツ、ケール  
芽キャベツ、枝豆等

## 取組の紹介

- 農産物のブランディングに取組みたい消費者へ安全でおいしく、栄養価の高い作物を提供したいとの思いから、JGAPを取得。(H28)
- JGAP認証取得により高品質な農産物の生産が出来、自社農園のブランド化により新たな販路開拓(2→6)及び経営面積が25%増加。
- 月に1回は従業員とのミーティングを行い、安全に作業が行う為のリスク箇所の点検や情報の共有化で労働者のケガをしないルール化に成功。
- ICTを活用した記帳システムの導入を導入し、生産履歴記帳に係る負担を軽減や記帳による農薬等の在庫管理の徹底により、JGAP取得前に比べ15%削減。
- 県内の農業大学校等において生徒に講演を行い、GAPの意義や重要性の普及啓発を実施。



大吉農園



整理整頓で作業効率UP



マルシェに出店

# 株式会社鳥越ネットワーク

有機農業・環境  
保全型農業部門

九州農政局長賞

氏名：株式会社鳥越ネットワーク  
所在地：福岡県赤村  
応募区分：個人経営の部

面積：2.65ha

栽培品目：水稲、トマト、  
ミニトマト、セロリ

## 取組の紹介

### 【効率的な生産に向けた取組】

- 施設栽培における環境制御装置の導入、企業との連携による生産管理システム開発等、先進的なスマート農業に取り組む。また、近隣の有機農業者と肥料等の生産資材の共同購入や農業機械を共同利用することで、コスト低減を図っている。



鳥越ネットワーク

### 【販路の確保に向けた取組】

- 有機農産物のトマトを原料とした加工食品（トマトケチャップ、ジャム、ピューレ）を開発・製造し、自社のHP等を活用したネット販売を実施。



有機トマト加工品

### 【地域内外で連携した安定出荷の取組】

- 九州の17産地と提携し、出荷資材等の共同購入、農産物の共同輸送を行うことで、コスト低減とともに有機農産物のロット確保を実施。

### 【地域内外への波及に向けた取組】

- 生協組合員を対象とした虫見会や収穫など、農作業イベントを年に2回開催。また、小学校での出前事業等を実施し、有機農業への理解促進を図っている。



消費者との交流

HP・SNS等

<https://www.torigoe-network.com/>